

九州大学 大学院システム情報科学研究所 情報学部門

志堂寺 和則 教授

九州大学 大学院システム情報科学研究所 情報学部門
志堂寺 和則 教授

専門分野

- ・ 実験心理学
- ・ 交通心理学
- ・ ヒューマンインタフェース
- ・ バーチャルリアリティ

キーワード

- ・ ドライバ
- ・ ヒューマンマシンインタフェース (HMI)
- ・ 運転支援

E-mail: TEL: 092-802-3593

E-mail: shidoji@inf.kyushu-u.ac.jp

Website: <http://cog.inf.kyushu-u.ac.jp/~shidoji/japanese/>

■ 研究の方向性

私は、元々、実験心理学分野の教育を受けており、現在もこの分野全体に非常に強い興味を持っている。実験心理学で探求する対象はヒトである。ヒトの心理は本当に興味深いものである。ちょっとしたことでヒトの心理は大きく変化する。実験心理学では、ヒトはどのような特性を持っているのか、どのようなアプローチをとれば行動を変化させることができるのかといったことなどが研究されている。私の場合は、具体的なフィールドとして、交通心理学とヒューマンインタフェース/バーチャルリアリティを選んでいる。

改めて記すことでもないが、車を始めとするヒトが使うようなプロダクトは、使うヒトの特性が十分に考慮されて初めて価値を持つ。多くの人が安全にかつ快適に運転できるように、そんな車のインタフェースの在り方、ドライバー支援の在り方、自動運転車との共存の方法等について研究したいと考えている。

■ あおり運転

ドライブレコーダを装着している車が増えて、あおり運転の様子が動画記録され、さらに動画投稿サイトなどにアップされるようになり、われわれ一般の者もあおり運転の恐ろしい様子をいくらかでも見ることができるようになってきた。マスコミでも盛んに取り上げて報道している。各種の調査によると、多くのドライバーがあおり運転を受けたと報告しているが、その一方、もうちょっとであおり運転をしそうになったと報告するドライバーも多い。

あおり運転は一種の攻撃行動と捉えることができる。攻撃行動については実験系心理学や社会心理学ではたくさんの研究成果がある。これらを考慮して、あおり運転の発生メカニズムを推測すると図1のようになる[1]。

■ 高齢ドライバー

人は誰でも年を取り、いつかは高齢ドライバーと呼ばれるようになっていく。しかし、高齢ドライバーが起こす事故が

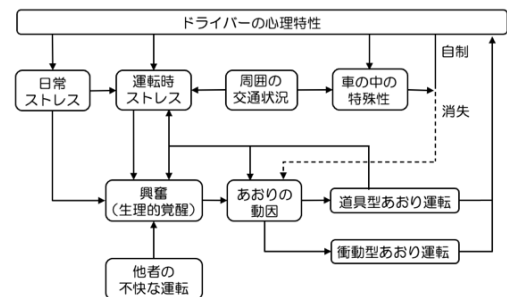


図1 あおり運転の発生メカニズム

多数報道されており、高齢ドライバーに対する世間の眼には非常に厳しいものがある。

今の高齢ドライバーが若い頃、高齢ドライバーの数が少なく、よって事故も少なく、高齢ドライバーの問題はまだ喫緊の重要事項としては認識されていなかった。しかし、今は高齢ドライバーの数が多く、しかも全ドライバーに対する割合が高くなっており、高齢ドライバーの事故は看過することができない状況と変化してきている。

高齢ドライバーの運転態度は、多くは若いドライバーよりも安全志向である。しかし、加齢の影響で心身機能が低下し、思うような運転ができなくなっていることが多い(高齢者の場合は個人差が非常に大きいのが特徴であるため、年齢の割に加齢の影響があまり出ていない場合も多い)。

運転をする能力が十分にある高齢者が安全に運転できるような、そして、運転をする能力が低下した高齢者が車を手放しても健康に満足な生活が送れるような、そういった世の中の実現に役立つような研究を行っていききたい。

[1]志堂寺和則：最近の「あおり運転」に潜む心理.交通安全教育, No.646 (第55巻第2号), pp.6-13, (2020).